

目次

巻頭言	ii
著者略歴	viii
● 実践研修 排尿機能検査	1
1 下部尿路の解剖と生理	2
1. 下部尿路の解剖	2
1) 男性の下部尿路	2
2) 女性の下部尿路	3
3) 蓄尿・尿排出に関する解剖学的因子	3
4) 男性と女性の解剖学的な差	3
2. 下部尿路の生理（蓄尿と尿排出のメカニズム）	4
1) 下部尿路の神経支配と自律神経受容体	4
2) 蓄尿のメカニズム	6
3) 排尿のメカニズム	7
4) 蓄尿と排尿における膀胱、括約筋の協調機能	8
2 下部尿路機能障害の評価法	9
1. 問診	9
2. 身体所見	13
1) 外陰部の診察	13
2) 直腸診	13
3) ストレステスト	13
4) Q チップテスト	14
3. 尿失禁定量テスト	14
4. 排尿日誌	16
5. QOL（生活の質）評価	19
6. 尿流動態検査	22
1) 尿流測定（uroflowmetry）	22
2) 残尿測定	22
3) 膀胱内圧検査（cystometry, CMG）	22
4) ビデオウロダイナミクス（videourodynamics）	22
5) 外尿道括約筋筋電図	22
6) 内圧尿流検査（pressure-flow study; PFS）	23
7) 腹圧下漏出時圧測定（abdominal leak point pressure; ALPP）	23
8) 尿道内圧測定（urethral pressure profile; UPP）	23
7. その他の検査	23

3	下部尿路機能と薬剤	24
1.	利尿薬, カフェイン (紅茶, お茶, コーヒー), アルコール類	24
2.	かぜ薬 (総合感冒薬)	24
3.	抗不整脈薬	25
4.	向精神薬	25
	1) 三環系抗うつ薬	25
	2) 抗精神病薬, パーキンソン病治療薬	25
	3) 抗痴呆薬	25
5.	抗コリン薬	25
6.	麻薬性鎮痛薬	26
7.	交感神経 α 遮断薬	26
8.	交感神経 α 受容体刺激作用を有する薬	26
9.	交感神経 β 受容体刺激作用を有する薬	28
10.	カルシウム拮抗薬	28
11.	交感神経 β 遮断薬	28
4	下部尿路機能障害をきたす主な疾患	29
1.	前立腺肥大症	29
	1) 症状	29
	2) 評価・診断	29
	a. 基本評価	29
	b. 国際前立腺症状スコア	29
	c. 排尿機能と前立腺形態の評価	30
	d. 内圧尿流検査 (pressure-flow study)	30
	e. その他の検査	30
	3) 治療	30
2.	神経因性膀胱	31
	1) 神経因性膀胱とは	31
	2) 神経因性膀胱の分類と原因疾患	31
	3) 病態と症状	32
	a. 排尿筋過活動を呈する神経因性膀胱	32
	b. 排尿筋低活動を呈する神経因性膀胱	32
	4) 合併症	33
	5) 疾患の例	34
	a. 脳血管障害	34
	b. パーキンソン病	34
	c. 二分脊椎症	34
	d. 椎間板ヘルニア, 腰部椎管狭窄症 (高齢者に多い)	34
	6) 神経因性膀胱の治療	34
	a. 治療目的	34
	b. 治療	34

3. 尿失禁	36
1) 尿失禁の分類	37
a. 腹圧性尿失禁	37
b. 切迫性尿失禁	37
c. 溢流性尿失禁	37
d. 機能性尿失禁	37
e. 反射性尿失禁	37
f. その他	37
2) 尿失禁の原因となる基礎疾患について	38
a. 腹圧性尿失禁	38
b. 切迫性尿失禁	38
c. 溢流性尿失禁	38
d. 機能性尿失禁	39
e. 反射性尿失禁	39
3) 尿失禁の治療	39
a. 腹圧性尿失禁の治療	39
b. 切迫性尿失禁の治療	43
c. 溢流性尿失禁の治療	43
d. 機能性尿失禁の治療	44
4. 過活動膀胱 (overactive bladder; OAB)	44
1) 過活動膀胱の定義	44
2) 疫学	44
3) 病態と病因	44
4) 過活動膀胱の QOL に対する影響	45
5) 診断	45
a. 診断における symptom-based の意義	45
b. 検査法	46
6) 治療	46
a. 薬物治療	46
b. 行動療法	47
5 尿流動態検査の実際	48
1. 尿流動態検査	48
1) 尿流動態検査の役割	48
2) 尿流動態検査の適応	48
3) 検査方法の種類	48
4) 尿流動態検査前後の一般的注意事項	49
a. 検査前	49
b. 検査中	49
c. 検査後	49
2. 尿流測定 (uroflowmetry)	50
3. 残尿測定	53
4. 膀胱内圧検査 (cystometry)	54
5. 外尿道括約筋筋電図 (sphincter electromyography)	57

6.	内圧尿流検査 (pressure-flow study; PFS)	59
1)	検査の実際 — 1	59
2)	検査の実際 — 2	67
7.	腹圧下漏出時圧測定 (abdominal leak point pressure; ALPP)	75
8.	尿道内圧測定 (urethral pressure profile; UPP)	77
6	尿流動態検査実例 (ケーススタディ)	79
1.	検査方法	79
2.	正常例	80
1)	男性 (正常例)	80
2)	女性 (正常例)	82
3.	下部尿路閉塞	84
1)	男性	84
2)	女性	85
4.	排尿筋過活動 (男性)	86
5.	排尿筋収縮力低下 (女性)	87
6.	腹圧性尿失禁 (内因性括約筋不全; ISD)	88
7.	その他	90
1)	膀胱知覚過敏	90
2)	知覚鈍麻 + 下部尿路閉塞	92
3)	低コンプライアンス膀胱	93
8.	アーチファクトの種類と対策	94
1)	測定中の確認: 測定中の直腸圧低下	94
2)	測定中の確認: 直腸バルーン自然抜去	95
3)	排尿中尿流曲線にスパイク	96
4)	測定中の問題: 腸蠕動圧と排尿時カテーテル自然抜去	97
5)	排尿時に直腸圧の0点が動いた	98
6)	排尿中カテーテル抜去	99
7)	腹圧の差し引き不十分	100
9.	アーチファクトを防ぐために	101
7	参考図書	102
●	下部尿路機能に関する用語基準 (国際禁制学会 2002 年用語基準)	104
●	排尿機能検査士制度規則	120
●	排尿機能検査士制度規則施行細則	122
●	索引	124